

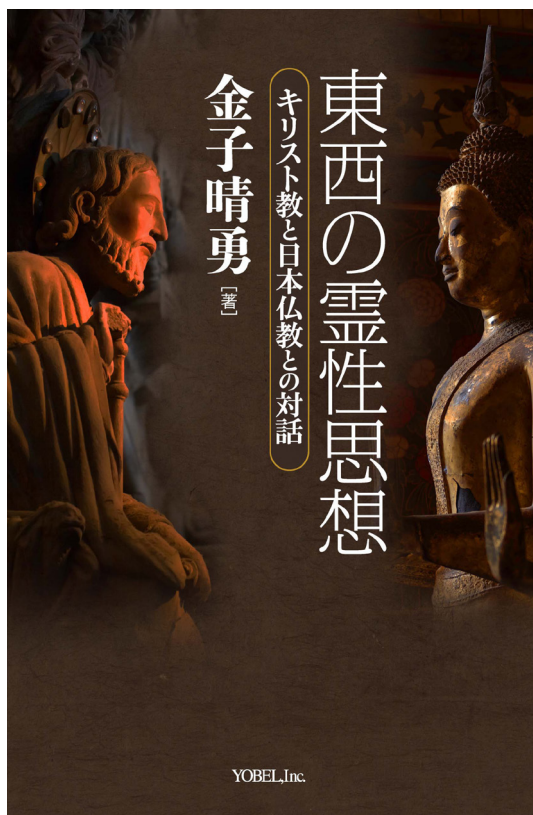


金子晴勇 [著] (ヨーロッパ思想史)

東西の霊性思想

キリスト教と日本仏教

2021年8月27日刊行



四六判上製・288頁・1,980円(税込)
1,800円+税 ISBN978-4-909871-53-4 C0016

西行や良寛を読むと心が澄み渡り、
法然や親鸞に信心は鼓舞される。

ルターと親鸞はなぜ、かくも似ているのか。
キリスト者が禅に共感するのはなぜか。

「初めに神が……」で幕を開ける聖書。唯一信仰に生きるキリスト教と、そもそも神を定立しないところから人間を語り始める仏教との間に対話は存在するのか。多くのキリスト者を悩ませてきたこの難題に「霊性」という観点から相互理解と交流の可能性を探った渾身の書。

主な目次

はじめに——キリスト教と仏教との霊性の比較は可能か

第1章 東西の宗教における霊性の展開

第2章 東西の霊性における二類型

第3章 キリスト教における霊性の特質

第4章 日本仏教における霊性思想の創造

第5章 キリシタンと近代日本のキリスト教霊性思想

第6章 日本の仏教思想家の霊性思想

第7章 東西霊性思想の比較考察

第8章 霊性の共通性と相違性

あとがき

参考文献

著者紹介 金子晴勇 (かねこ・はるお)

1932年静岡生まれ。1962年京都大学大学院博士課程中退。67年立教大学助教授、75年『ルターの人間学』で京大文学博士、76年同書で日本学士院賞受賞。82年岡山大学教授、1990年静岡大学教授、1995年聖学院大学客員教授。2010年退官。 主な著書：『ルターの人間学』（1975）『アウグスティヌスの人間学』（1982）、『ヨーロッパ人間学の歴史』（2008）、『エラスムスの人間学』（2011）、『アウグスティヌスの知恵』（2012）、『知恵の探求とは何か』（2013）、『キリスト教人間学』（2020）、『私たちの信仰』（2020）、『人文学の学び方』（2020）、『ヨーロッパ思想史』（2021）、『宗教改革の認識とは何か』（2021）、『キリスト教思想史の諸時代Ⅲ』（2021）ほか多数 主な訳書：アウグスティヌス著作集 第9巻（1979）、ルター『生と死の講話』（2007）、ルター『神学討論集』（2010）、エラスムス『格言選集』（2015）、C. N. コックレン『キリスト教と古典文化』（2018）、エラスムス『対話集』（2019）ほか多数（赤字は小社刊行）